

《乳酸菌LS1 技術情報》

「乳酸菌 LS1」が代表的な歯周病原細菌 2 種を抑制 ～日本歯周病学会で発表～

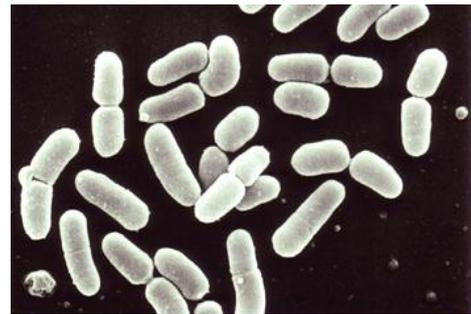
株式会社フレンテの事業会社である株式会社フレンテ・インターナショナル（本社：東京都板橋区／社長：小池孝）は、東海大学医学部感染症研究室 古賀泰裕教授との共同開発の「乳酸菌 LS1」（*Lactobacillus salivarius* TI 2711）が、代表的な歯周病原菌 2 種に対して抑制効果があることを、2008 年春季歯周病学会で発表しました。

【発表日】 2008 年 4 月 25 日 第 51 回日本歯周病学会総会・学術大会にて発表

【論文名】 *Lactobacillus salivarius* TI 2711 の服用による歯肉縁下プラーク中 *Prevotella intermedia* 抑制効果

【研究背景】 厚生労働省の調査（2005 年）によると、歯周病に罹患している人々は成人の約 8 割に及び、国民病ともいえる疾患です。歯周病を持つ人々は、糖尿病や心筋梗塞になるリスクが高まります。

当社では、健康なヒトより分離した乳酸菌 LS1 が、歯周病原菌の P・ジンジバリス菌を減少させることをすでに報告しています。本論文では、*in vitro* で抑制効果があった歯周病原菌の一つ、P・インターメディア菌に対して臨床試験を実施しました。



<乳酸菌 LS1>

【要 約】 被験者（LS1 服用群 39 名、プラセボ群 38 名）に対し、LS1 含有タブレットまたはプラセボタブレットを 12 週間服用させ、歯肉縁下プラークの P・インターメディア菌の菌数を測定しました。

その結果、LS1 服用群では歯肉縁下プラーク中の P・インターメディア菌数は、服用前と比較して有意に減少しました。また、服用中止後は有意な増減は見られませんでした。プラセボ服用群では、有意な増減は見られませんでした。

LS1 の服用により、P・インターメディア菌が減少したことから、LS1 は歯肉縁下プラーク中の P・ジンジバリス菌に加え、P・インターメディア菌においても抑制効果があることが示唆されました。

これらの歯周病原性の高い細菌を抑制することは、歯周病に対するリスクを減少させます。LS1 の継続的な服用により、歯周病予防効果が期待できると考えられます。